国民の森林・国有林
林野庁
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）林

参加者に感謝をこめて全員で記念写真

御嶽山登山道の清掃と修繕に汗

「山の日」制定を記念してPRも兼ねて作業

主な項目

○「木曽悠久の森」管理委員会の開催 …… P2
○「山の日」制定記念ページ …… P5
○ 各地からのたより …… P6
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… P9
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… P10

「木曽悠久の森」管理委員会の開催

【計画課】 中部森林管理局では、世界的に極めて貴重な木曽地方のヒノキ等の温帯性針葉樹林の保存・復元を目指し、平成二十六年四月に、それらがまとまって分布するエリアを「木曽悠久の森」（一六、五七九ヘクタール）として設定しました。

木曽悠久の森管理委員会は、「木曽悠久の森」の保存・復元を適切に取り組んでいくため、学識経験者等十六名で構成されています。

七月十二日、木曽森林管理署で開催された委員会では、下部組織である植生管理専門部会、森林資源利用専門部会、森林総合利用・地域振興専門部会の各座長等から、現在の検討状況の報告がありました。

「木曽悠久の森」管理委員会の模様

これらの報告に対し、「人工林の天然林化には、復元しようとする森林の目標林型をまず定める必要がある」、「重要文化財の屋根材として、サワラの大径人工林材の生産に取り組む必要がある」、「木曽ヒノキ美林とともに生活してきた地元住民の想いを理解して、森林の取り扱いを検討されたい」などの意見が出されました。

また、「木曽悠久の森」内で観光客等へ危険を及ぼすおそれのある樹木の取り扱いについても議論され「どのような場合に危険木の搬出が想定されるのか」、「伐採に伴う支障木も危険木に含めるのか」などについて議論が行われ、今後の危険木の取り扱いが了承されました。

原木流通の問題点出される！
地区需給情報連絡協議会を開催

【名古屋事務所】 「国産材の安定供給体制の構築に向けた中部地区需給情報連絡協議会」の今年度第一回目の会合が七月十四日、名古屋駅前の愛知県産業労働センター・ウインクあいちで開かれました。

同協議会には中部森林管理局、中部地区の行政関係者（長野・岐阜・愛知・富山・石川・福井県の六県）、森林組合、県木連、木材業者、木質建材メーカー、製紙工場、原木流通関係者及び学識経験者で構成されています。

冒頭挨拶で林野庁木材産業課長より「現在、我が国の木材需要は住宅分野が主なシェアを占めており、CLT00（直交集成材）をはじめとしたエンジニアードウッドを中心とした中・大規模建築への広がり、FIT創設に伴う、地域需要の増大など需要については構造変化が起こっていると思っている。国産材の安定供給を進めていく上で川上・川中・川下が相互に理解していただきWIN-WINの関係を構築することが大切である。そのためにはこうした協議会を通じて情報共有する必要がある」と挨拶がありました。

林野庁　小島木材産業課長の挨拶

その後、行政関係者からの説明・報告を受けた後、参加者による報告の形式で議事が進行されました。報告から、各県・森林組合関係者からは「原木の生産に関しては皆伐・再造林に取り組んでいる。ただ、再造林にはコストがかかり、補助金が交付されても山主にはまったく収入がない」、市場関係者からは「市は全体的に模様眺め。ヒノキ六トンの長木が売れない。六十年生以下の木では山元に還元できない」、合板関係者からは「チップ用丸太の集荷が木質バイオマス発電稼働の関係で調達は非常に困難。木質バイオマス発電を優先する傾向は林業にとって良いことではない」、苗木生産者からは「どれだけの再造林があるのか見えないと生産持続は難しい」など川上～川下の意見が出されました。

地区需給情報連絡協議会の様子

こうした報告を受けて、座長の植木達人信州大学農学部教授は、現状の原木流通の問題点として①山元への還元がなければ循環的な木材生産はあり得ない、②

労働力不足、③皆伐造林（苗木生産・植林問題）、④大径材の扱い、⑤中小製材工場の立場をどのように見せていくか、⑥外材需要（川上と川下のせめぎ合い）などの問題点が浮かび上がったとし、次回会合ではこれらの課題について議論をする時間を設けると提案しました。

本協議会の冒頭に中部森林管理局次長からの問題提起もあり、持場立場から活発な意見が出された協議会でしたが、回を重ねる毎により一層の情報共有の場となることが期待されています。

第五十五回 高山植物等保護対策協議会総会を開催

【保全課】 七月十四日、中部森林管理局大会議室において、長野県内の国有林並びに民有林における高山植物等の保護と地域内の美化を図り、将来にわたり国民の福祉に寄与することを目的とする「高山植物等保護対策協議会」の第五十五回総会が、長野県環境部自然保護課長をはじめ、環境省、警察本部、教育委員会等行政機関、山岳・観光関係団体、五地区の協議会長等、総数計二十八名の出席のもと、開催されました。

「平成二十七年度事業活動報告」においては、お花の摘み取りや立入禁止区域への進入など八百五件の指導が行われたことが報告され、中には、立入禁止用の「グリーンロープ」が切断されたような跡があったという悪質な事例もありました。「グリーンロープ」は高山植物等の保護活動を進めていく上で不可欠であり、古いグリーンロープは張替えるなど対策に取り組んでいます。

「平成二十八年度事業計画」では、野生獣による高山植物の食害が各地で見られることから、保護パトロール中における目撃情報を収集し関係機関と共有するなど高山植物の食害対策を充実することや、八月十一日が、国民の祝日「山の日」に制定されたことを踏まえ、登山者の多い七月十五日から八月十四日までの「信州山の月間」中にパトロールを強化すること、パトロールの際は、気象情報や火山情報等を含む最新の情報を把握した上で実施することなどが、総会で承認されました。

「高山植物等保護対策協議会」総会の模様

参加された会員からは、地区協議会のパトロールに参加したいので、実施の際は、地区協議会から情報をいただきたいなどの積極的な意見も出され、関心の高さを再認識しました。

また、行政機関の取組として、環境省長野自然環境事務所より「国立公園内における野生生物の保護管理等について」、長野県自然保護課より『「みんなで信州の山岳を守ろう！キャンペーン」について』、中部森林管理局より「平成二十八年度中部森林管理局における獣害対策の取組」が報告されました。

中部地方整備局との連携！

岐阜森林管理署庁舎施設見学会を開催

【名古屋事務所・岐阜署】 中部森林管理局名古屋事務所は、中部地方整備局の依頼により、七月二十七日、「岐阜森林管理署庁舎に係る施設見学会」を開催しました。

この見学会は三年越しで実現したもので、平成二十六年台風八号による南木曽土石流災害、同年九月御嶽山噴火、伊勢志摩サミット準備など様々な事由で行事が延期となっていたもので、名古屋事務所は公共建築物等の木材利用促進に係る連携として、二十六年度より中部地方整備局と各種会議への連携・資料提供、当所主催行事への参加などを行っており、今回の見学会もその連携の一つとなります。

今回の見学会には中部地方整備局から十五名が参加され、当局からは庁舎管理者である岐阜森林管理署及び局、名古屋事務所と施工業者の金子工業㈱の担当者が応対しました。

冒頭、藤村岐阜森林管理署長から「二〇二〇東京オリンピックで、木造の大型スタジアム、新しい木質材料としてCLTの開発など以前に比べて木材が使いやすくなっていると感じている。本日の見学会を通じて、大型の木造構造物建築に関する理解が進むことを願っています。」と挨拶をいただき、中部地方整備局の小野寺営繕調査官から「整備局も木造化については本格的な庁舎の実績はまだまだ無い状況で、建築や管理をされている方々から、生の声や現地見学する中で気づいたことを持ち帰らせていただき、今後に生かしてゆきたいと思っている。」と代表挨拶がありました。

藤村岐阜森林管理署長の挨拶

この見学会ではあらかじめ、入札公告・入札説明書等の資料や事前の質問と回答などの情報提供を行った上で開催しました。

施工者の金子工業から「年内の降雪前に屋根を伏せ、養生を十分行った。木材使用にあたっては含水率に気をつけた。県産材・地域内での製材加工。水回りには凍結対策を行った。結露がほとんど無いのが木造建築の良いところ」など留意した点等について補足説明を受けた後、見学者から質問等を受けました。

岐阜森林管理署内の見学風景

見学者からは「当時CLTがあったら比較検討したか」、「大工不足は無かったか。木材の調達に苦労しなかったか」、「設計から工事完成まで1年と短く、工夫した点は」等予想以上の質問に公共建築物の木造建築に対する関心の深さを感じました。次に庁舎内の見学に入ると営繕部の専門家ということもあり、庁舎内の天井、車庫や軒の構造等に関心を寄せるなど木造建築構造を詳細に見入っていました。見学会の終わりには「今回の庁舎見学は大変、勉強になりました。引き続き連携を」などの声も聞かれ、三年越しの見学会が成功裏に終わったことに安堵したところです。

今後とも中部地方整備局と公共建築物等木材利用促進に係る連携をはじめとして、手探りではありますが、色々な形での連携を名古屋事務所として繋げていきたいと思っています。

森林整備の低コスト化に向けたブロック別研究会を開催

【整備課】 去る七月二十六日、林野庁整備課が主催する「森林整備の低コスト化に向けたブロック別研究会」が、中部森林管理局大会議室において、近接する八県（新潟・富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知）の林務部局、中部森林管理局及び森林整備センター中部整備局から、それぞれ担当者が参加し開催されました。

民有林においては、森林整備の低コスト化に向け、今年度から、「伐採・造林一貫作業システムの導入促進」、「列状間伐の推進」、「間伐等に係る搬出材積に応じた支援内容の見直し」及び「森林作業道整備の効率化」に係る幅広い取組を進めることとされています。

同研究会は、森林整備の低コスト化に向けた取組を全国的に進めていくため、国有林の先進事例を情報提供するとともに、各都道府県から先進事例やアイディアを発表してこれらを共有し、可能なものは民有林で次年度から導入することとして、今年度初めて開催されたものです。

ブロック別研究会の様子

冒頭の森林整備部長及び長野県林務部森林づくり推進課長の挨拶に続き、中部森林管理局から、国有林における森林整備の低コスト化の取組について発表を行いました。

森林整備課長からは、伐採・造林一貫作業システムによる低コスト化の事例として、末木枝条をバイオマス利用することによる無地拵及び集材で使用する林業機械の活用による地拵の省力化、フォワーダでのコンテナ苗運搬による植付の省力化のほか、立木利用によるシカ防護柵等について、また、資源活用課長からは、列状間伐の様々な取組事例や二回目間伐における列状間伐の可能性等について発表がありました。

続けて、民有林における取組として、各県から、C材収集作業システム、大規模集約化の加速、コンテナ苗の活用、列状間伐、路網整備、伐採から再造林の一貫作業の推進、他産業と連携した先進的林業経営、集落を単位とした木材生産システム、高性能林業機械損料等の積算、事業体による低コスト施業提案事業、エリートツリーとコンテナ苗の活用、架線系一貫作業システムの検討、直接支援事業の標準単価の見直しとチェックリストの活用等、継続中の取組事例と新規のアイディアが発表されました。

最後に、民国共通の課題である森林整備事業の低コスト化や苗木の需給調整、カラマツ種子の確保、末木枝条のバイオマス利用等について意見交換を行い終了しました。

なお、全国七ブロックで発表された内容については、森林整備事業の低コスト化に向けた取組を全国展開するため、今後、林野庁HPにおいて公開されることとなっています。

「山の日」制定記念ページ

◆御嶽山登山道の清掃と修繕◆

【岐阜署】 七月二十日、今年から国民の祝日となる「山の日」の制定を記念し、岐阜森林管理署は下呂市と共催で、下呂市小坂町濁河温泉にある御嶽山登山道の清掃や修繕を行いました。

今回は山の日のPRとともに、毎年実施している「国有林ゴミゼロ運動」の一環として企画し、署と下呂市、名古屋造林素材生産事業協会小坂支部、名古屋林業土木協会小坂支部及び山小屋関係者の七十二名が参加し、登山口から約五〇〇メートル先にある吊り橋「仙人橋」までの木道の整備と、腐朽した仙人橋の床板の張り替えや木道の解体撤去作業を行いました。

仙人橋の床板張替作業

人力による材料の運び上げ

一番大変だったのは、床板の材料運びで防腐加工を施した地元産ヒノキで作成した床板一五〇枚を全員で登山道口から人力で運び上げる作業でした。一枚十キログラム近くある板を二枚担いで何往復も運ぶ強者もいて、参加者全員の協力で作業も順調に進みました。作業内容が、従来のゴミ拾いや清掃といった軽作業とは異なり、工事に近い作業となりましたが、関係団体から多くのプロフェショナルに参加していただいたおかげで予定した時間内に無事終了することができました。

終了後、登山道を管理する下呂市の関係者からは、夏山シーズンが本格化する前に、多くの人の協力により橋や木道が整備された事に対し感謝の言葉が述べられました。

企画展「山の日」記念『山岳写真展』を開催！

【名古屋事務所】 『山の日』を記念して七月一日～八月十六日の間、「熱田白鳥の歴史館」において「山岳写真展」を開催しました。

この企画展は都市住民へ「山の日」制定趣旨の普及と日本の山（森林）への理解醸成を図ることを目的に企画したもので、写真展では中部森林管理局に勤務する職員が森林パトロールなど日常業務中に撮影した、管内四県（富山、長野、岐阜、愛知）の国有林等の山岳風景や管内に生息する希少な高山帯の動植物等の記録写真を期間展示しました。

山岳写真展示風景

山岳写真展の見学者

展示した写真は、北アルプス（立山、笠ヶ岳、槍ヶ岳など）や、中央アルプス（駒ヶ岳）、南アルプス（仙丈ヶ岳、摩利支天）のほか八ヶ岳、浅間山、白山連峰など管内の主要峰をはじめ、愛知県の段戸山及び原生林、棚山など風光明媚な国有林を含む、五十五枚の山岳風景と、コマクサ、アツモリソウ、ヨツバシオガマなどの高山植物や、ライチョウ、オコジョ、アサギマダラなどの動物達、池や池溏（ちとう）、名勝の滝など十六枚、合わせて七十作品で、林野庁職員の目線から撮影した写真のため一般の方々には珍しい作品写真展となりました。

期間中の見学者はマスコミ関係者のほ

か近隣の公共施設や誘客施設、関連団体からの紹介で訪れる方々もあり、連日大勢の方々が来場され、見学者の中には若い頃行った場所もあり、写真を見て懐かしむ方々や初めて見る風景に感嘆し、所在を熱心に聞く方、また「展示終了後は廃棄される物があれば譲って貰えないか?」といった要望もありました。

「山の日」制定を記念したコンサートを開催

[名古屋事務所]「山の日」目前となった八月五日、「熱田白鳥の歴史館」において同館に隣接するレストラン"SLOW Food RESTAURANT 白鳥物語"と連携し「夏休み!子供も大人も木で遊ぼう!! ウクレレ・ランチコンサート」を開催しました。

このイベントは、日常的に山を意識する機会が少ない都市部に生活する方々に、「山の日」を目前にして「山に親しむ機会と山の恩恵に感謝する」機運を高めることを目的に"白鳥物語"、プロミュージシャンJuke OkaYoshiと名古屋事務所がコラボレーションして催したものです。

二部構成で催し、第一部は木とのふれあいで、一般参加者が同館の催しをサポートするボランティア団体「フォレスト サークル あいち(FCA)」の皆さんに教えていただきながら木製いすの製作に取り組みました。そして第二部はプロミュージシャンのジューク・オカヨシさんによる「ウクレレふれあいコンサート」を催し、コンサート終了後は自然野菜などを中心としたランチで山(自然)の恵みを味覚で堪能しました。

コンサートでは、ジュークさんが「木材に囲まれて落ち着きますね、時間を忘れていつまでも演奏しちゃいます」とトークを織り交ぜながら終始和やかな雰囲気で進められ、ディズニーメドレーからクラシック、津軽や沖縄民謡まで多彩に演奏され、間伐材で作られたミンミンという楽器の紹介と演奏もあり「山の日」にちなんだ催しとなりました。

参加者からは、「楽しかった。こんなに短い時間で椅子を作ることができるとは思わなかった」「さすがそれぞれプロの方々ですね」、木と音楽と料理の達人たちとのふれあいは、五感を目一杯使った楽しい夏休みの思い出となったようです。

「熱田白鳥の歴史館」は木造大空間のホールで、木の良さや林業の歴史を紹介・体感する施設ですが、今回はコンサートという新しい試みとなりました。

夢中でミニ椅子を組み立てる参加者

ウクレレコンサートの様子

各地からのたより

長野国有林森林整備協会北部支部 社会貢献資材引渡

[北信署]戸隠森林植物園では、今年四月の開園前に一部木道が大きく破損し職員により補修を行ってきました。

この補修によりオフィシャルサポータである日本森林林業振興会長野支部から、今年五月に資材提供頂いた床板の在庫が少なくなり、他の維持修繕にも影響が出ることが懸念されていたところ、毎年秋に戸隠森林植物園のボランティア作業を実施いただいている長野国有林森林整備協会北部支部から、「会員の土場にある不要となったカラマツを補修資材として提供したい」との申し出があり、長野森林組合の製材所で製材されたカラマツの床板約七十枚が、七月十五日戸隠森林植物園で酒井支部長から北信森林管理署長に引き渡されました。支部長から「土場にねむっていた資材が、このよ

長野国有林森林整備北部支部の皆さんと
川村北信森林管理署長(左から2番目)

うな形でお役にたてる事ができてうれしい」と挨拶があり、北信森林管理署長は「修理資材の確保が厳しい状況の時に社会貢献として資材提供を頂き大変感謝している」とお礼が返されました。

今後、戸隠森林植物園の木道補修資材として活用させていただきます。

教職員を対象とした森林・林業学習会を開催

［ふれセン］八月四日、木曽地域の教職員を対象とした「森林・林業学習会」を、上松町の赤沢自然休養林で実施しました。

この学習会は、小・中学校の教職員に森林・林業について理解を深めていただき、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県と共催して平成十四年度から実施しているもので、今回で十五回目の開催となります。

今回は、温帯性針葉樹の保存・復元を図るために設定された「木曽悠久の森」について、先生方に理解を深めていただくために、赤沢自然休養林内の説明に絞りました。

木曽悠久の森を散策

木曽悠久の森の説明風景

森林鉄道で丸山停車場まで移動し、木曽五木の説明から始まり、その後、普段一般の方が入林出来ない「千本立」、「奥千本」を散策しながら、森林の生い立ちや歴史、「木曽悠久の森」の取組などの説明を行いました。

前日の夕立のせいか、澄み切った空気とヒンヤリとした森林の中を、軟らかい土を踏みしめての散策は、私たち職員でも中々に味わうことの出来ない爽快なものでした。

参加した先生からは「身近なすばらしい自然を教職員、地域の方が理解し、子供達に伝え、つなげていく大切さを、子供達にも伝えたい」、「教師が自然の中で学び、安心する心ができたとき、子供に対して多くを教えることができる」、「遠足等自然体験で来てみたい」との感想が寄せられました。

毎年、先生方の参加が減少傾向にありましたが、今回は木曽地域の十一名の先生方に参加していただきました。アンケートでは、次回の開催希望について「普段入林できない箇所へのエコツアー」を希望された方が殆どであり、これを参考によりよい学習会を計画していきたいと考えています。

インターンシップで現場業務を体験

［木曽署］七月二十五日から二十九日の五日間、長野県林業大学校の学生四名（二年生三名、一年生一名）を受け入れ、現場業務の就業体験を行いました。

単純な山の見学等ではなく、実際に調査等を体験してもらいながら業務内容を理解していただくことを基本に考え、一日目は小木曽国有林（木祖村）での獣害被害対策（食害防止器材の設置、クマ剥ぎ防止テープ巻き、ニホンジカ捕獲用囲いワナで誘因用の餌設置）、二日目は小川入国有林（上松町）での収穫調査体験と森林事務所での調査取りまとめ（復命書の作成）、三日目は三浦国有林（王滝村）等での製品生産箇所の現地見学と新上松土場（上松町）での販売業務（素材検知体験）、四日目は小川入国有林（上松町）でヒノキ種子結実促進試験地でのジベレリン塗布等、赤沢自然休養林での木曽悠久の森内を散策しながらのストレスチェック体験、最終日の五日目は御岳国有林（王滝村）治山事業地の見学を行いました。

食害防止器材「ウッドガード」を設置して

学生からは、「多くの実習が学校の授業で学ぶ内容だったが机上で学ぶだけではなく実際に自分の手で行うことにより理解が深まった」、「ザウルスロボやダブルエンドレス索など言葉や写真で見たことはあっても実際に見たりしたことはな

収穫復命書の作成

いものを見ることができた」、「普段の生活の中では森林管理署の業務について触れることがないので実際に獣害対策、収穫調査、試験地調査など体験することで深く学ぶことができた」、「治山業務の大切さを学んだと同時に興味を持った」などの感想をいただきました。

担当した各講師も、自分たちが行っている業務をなるべくわかりやすく説明するなど貴重な機会となりました。

民国連携した低コスト造林の取組
～シカ被害対策（斜め張り方式）現地検討会の実施～

［南木曽支署］ 近年、ニホンジカが森林にもたらす食害は全国各地で増加しており林業経営に深刻な問題となる中、当支署管内においてもニホンジカの目撃情報が年々増えてきたため、センサーカメラによる生息調査に三年前から全署的に取り組んできたところ、子鹿を含めた撮影数の増加や新たな箇所での撮影など生息数や生息域の拡大が確認され、将来的には森林被害の発生や拡大が懸念されています。

このため当支署では、効率的、効果的なニホンジカ対策の検討を進めており、今回その一環として、比較的低コストで設置できる、斜め張り方式の獣害対策用防護柵（さいねっと）の現地検討会を、七月二十六日に、南木曽国有林314ほ林小班において、地元自治体や林業事業体から担当者四十名を超える参加を得て開催しました。

開会式で挨拶する酒向南木曽支署長

当日、開会式では酒向支署長より「効率よく森林資源を循環利用していくためには、伐採、保育に掛かるコストを軽減する必要がある。民国共通した課題であり、協力して効果を実証したい。」との挨拶があり、続いて、現地検討会の講師である大同商事株式会社の担当者から今回設置する「さいねっと」の性能や設置方法などについて説明があり、その後二班に分かれ、一五十㍍ほどネットを設置しました。なお、今回の検討会ではさらなるコストの軽減のため、現地の立木を支柱の代わりとして活用したり、林道下の柵はシカが跳び越え易いため、従来の支柱より長い支柱を使用するなど職員等のアイディアを採用しました。

「さいねっと」の性能や設置方法の説明

今回の現地検討会は、あいにくの雨天での開催となりましたが、参加者全員が新たな設置方法の習得や、課題と解決策の検討に真剣に取り組んでいました。参加者からは「支柱も軽量で作業性が良い」や「比較的安易に張ることができた」、「民有地でも試してみたい」などの感想が聞こえる一方で「当地のような多雪地帯で雪の重量にどこまで耐えられるのか」と心配する声も聞かれました。

当支署では、今後降雪時、融雪後に係るメンテナンスコストの検証等を実施し、得られた情報を民有林にフィードバックするなど情報共有するとともに、低コスト造林や獣害被害対策など民国連携した取り組みをさらに進めていくこととしています。

行事・会議等の予定

◎関東財務局国有財産監査
9月5～6日　木曽署管内

◎国有林材供給調整検討委員会
9月7～8日　名古屋市

◎森林作業道現地検討会
9月13～15日　南信署管内

◎第二回保護林管理委員会
9月29日　中部森林管理局

シリーズ「森林官からの便り」

［南信署　駒ヶ根森林事務所］
首席森林官　今村 正之

駒ヶ根森林事務所は、長野県南部の伊那谷を流れる天竜川の西側にあたる黒川、赤穂、中田切、飯島、上片桐、大島山の国有林、東側の四徳及び手良沢山国有林の約一万一千ヘクタールの国有林と北は箕輪町から南は松川町までの約千八百ヘクタールの官行造林を管轄しています。

この伊那谷地域は、水田や田畑、里山が天竜川を挟んで広がり、東に南アルプス（赤石山脈）西に中央アルプス（木曽山脈）と、東西にそびえる三、〇〇〇メートル級の二つのアルプスに抱かれた悠久の自然景観を感じさせる美しい地域でもあります。

南アルプスの裾野に広がる伊那谷

氷河が削り出した千畳敷カール）

当森林事務所は、この中央アルプス（北は将棋頭山から南は念丈岳まで）を管理しており、百名山の木曽駒ヶ岳や空木岳、二百名山の南駒ヶ岳などの山々を目指す登山者や、氷河地形で花崗岩の白さとハイマツの緑が鮮やかなコントラストをなす千畳敷カールに来る行楽客など、高山植物や美しい山岳景観を求めて中央アルプスの玄関口である駒ヶ岳ロープウェイには年間を通じて約二十一万人が訪れます。

宝剣岳（左）と天狗岩（右）

最近の話題としては、駒ヶ根市が上伊那地域の主体となり、地域の観光資源である中央アルプスのブランド力を国際的に高め地域振興につなげようと、ジオパーク化や国定公園化（現在は県立公園）に向けた気運が昨年あたりから徐々に高まり始めており、今年の秋には推進協議会の設立も計画されているところです。

また、もう一つはニホンジカの問題です。ニホンジカについては従来、天竜川より西側には生息していなかったところですが、近年徐々に中央アルプスでも個体が確認されるようになり、生態系や自然環境への影響、高山帯に向かって生息域が拡大することによる高山植物等への影響が危惧され始めました。こうしたなか被害を未然に防ぐ為、地域の関係する機関が広域的に連携し効果的な対策を講じることを目的として、今年の三月に上伊那地域が中心となり「中央アルプス野生動物対策協議会」が設立されました。

当森林事務所の業務としては、グリーンサポートスタッフによる高山植物の保護パトロールや、センサーカメラやライトセンサスによるニホンジカ等の生息域調査、秋から冬に掛けては地元猟友会と連携した職員実行によるくくり罠でニホンジカの個体数調整など、森林保全管理業務を中心とした業務を行っているところですが、「地域に必要とされる国有林とは何か?」「国有林として地域に貢献できることは何か?」をその都度考えながら地域に密着した業務を微力ながら行っています。

亜高山体へのセンサーカメラ設置

GSSによるグリーンロープ張り替作業

ご当地自慢

富山県魚津市編

40

富山署

富山県魚津市は、富山県東部の中心都市として賑わってきました。北西には富山湾が広がり「蜃気楼・埋没林・ほたるいか」が三大奇観として広く知られています。

また、来年には第六十八回全国植樹祭が開催されることとなっています。

◇蜃気楼

蜃気楼は大気中の温度差によって光が屈折を起こし、遠方の風景などが伸びたり、反転した虚像が見られたりする現象で、当市からは富山湾に浮かぶ工場地帯の風景や反転した船舶などが見られます。

富山湾に浮かぶ蜃気楼

蜃気楼は、四月～五月の午前十一時～午後四時頃で気温十八度以上の時に、よく現われます。

見どころスポットの、魚津生地入善線の北鬼江交差点から、海の駅交差点の富山湾沿いの海岸道路は、「しんきろうロード」と呼ばれ多くの方が訪れます。

◇魚津埋没林博物館

しんきろうロードの魚津港の近くに博物館があります。

この博物館は富山湾の二つの不思議と言われる「埋没林」と「蜃気楼」に出会える場所として多くの方が訪れる場所です。

埋没林は、約二千年前に、片貝川の氾濫によって流れ出た土砂がスギの原生林を埋めつくし、その後海面が上昇し出来上がりました。

魚津埋没林博物館

水中展示された埋没林の樹根

展示場では、埋没した樹齢約五百年のスギの根っこをその場で保存・展示しており、縄文時代の気象の変化を証明する貴重な資料として、国の天然記念物にも指定されています。

実際に見ると、その大きさに圧倒されます。

◇魚津桃山運動公園

博物館から、山に向かって約六キロメートル程進んだところに運動公園があります。

この運動公園は魚津市の高台に位置し、僧ヶ岳や富山湾を望むことができる自然豊な場所にあり、本格的な各種スポーツ施設から、ピクニックやアスレチックなど、親子で楽しめるコミュニティパークとして人気を集めています。

魚津桃山運動公園

この運動公園は来年に開催される「第六十八回全国植樹祭」のメイン会場として使用されることとなっています。

◇洞スギ

南又谷流域の標高五〇〇メートル～七〇〇メートル付近に生林している推定林齢五百年生の天然スギで、幹に空洞があることから洞スギと呼ばれています。

特徴としては、人工林のスギのように地面から垂直に幹が伸びているのと違い、多くは巨大な石の上に乗るような形で生育しており、その景観からして他では見られない独特の景観を呈しています。

洞スギ

◎アクセス

魚津埋没林博物館

○電車での場合

あいの風とやま鉄道魚津駅から徒歩二十分

○車での場合

北陸自動車道魚津ＩＣから車で十分

（写真の一部は魚津埋没林博物館提供）